

### 第3回美作市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成27年12月25日(金) 午後3時～午後4時30分

2 場 所 美作市民センター 3F大研修室(美作市栄町35番地)

3 出席者 (敬称略)

(1) 構成員

|            |       |
|------------|-------|
| 市長         | 萩原誠司  |
| 教育委員長      | 福島信夫  |
| 教育委員長職務代理者 | 杉山知子  |
| 教育委員       | 西浦康寛  |
| 教育委員       | 佐々木勇  |
| 教育委員       | 須田多香子 |
| 教育長        | 大川泰栄  |

(2) 職員

|       |           |      |
|-------|-----------|------|
| 教育委員会 | 教育次長      | 小林昭文 |
|       | 教育総務課長    | 山名浩二 |
|       | 学校教育課長    | 新田義純 |
|       | 社会教育課長    | 宮前聖  |
|       | スポーツ振興課長  | 貞森博美 |
|       | 教育総務課参事   | 廣畑晃  |
|       | 教育総務課総務係長 | 渡邊祥子 |
|       | 教育総務課主任   | 綱澤知則 |
| 総務部   | 総務部長      | 尾崎功三 |
|       | 秘書課長      | 有友一正 |
|       | 総務課主任     | 植月裕美 |
| 企画振興部 | 企画振興部長    | 竹田人土 |
| 保健福祉部 | 保健福祉部長    | 山本直人 |

4 議題及び議事概要 別紙のとおり

## 1 開 会

(事務局)

ただいまから、第3回美作市総合教育会議を開催いたします。

## 2 市長あいさつ

(萩原市長)

来年1月22日に、おそらく全国でも初めて、岡山県内でも初めてだと思うが、岡山県市長会と教育長会と合同開催として、意見交換をし、それをもって教育予算の充実に資するように議論を高めていこうという会議をいたします。この会議については、市長会から冒頭どこかの教育長から、リード的発言をいただきたい。大川教育長にお願いしたい。必要があればそれに加えて大川さんご推薦で2、3教育長さんからの話を聞いた上で思案をしようということです。私の趣旨が実務を変わって、その教育長のあり方としての変更が特徴なんです、市長部局との関連ができたことは間違いない。その状況をどう捉えていくか。典型的特徴が、みなさんの所にお話させていただいているこの教育大綱、これは本年度中でほぼできるのですが、資料として求められている。これをひとつの素材としながら、市としてはこういうことが議論されている、市長部局との関連としてはこんなところが新たに重要視されている、福祉と教育の連携は当然であります、教育をまちづくりに最大限に使おうとしているのがうちですからという発言をしますから。その発言の上で、従来のものを応化していく、来年度に向けて年に1回か2回はこういう会合を開こうとか、あるいは教育長会議の中で議論された政府や県に対する要望があるが、今まで市長会とは完全に別途独立問題だったが、それをいったいどうするんだという議論が最終的に出てくると思う。市長会と教育長会議は別で行われていたので、調整さびわけの必要が出てきますが、今後は、教育長会議と市長会議は手をつないで協力していこうという結論がでるはず。大綱については今日、おおざっぱな方向性がでるので、22日にその案を修正したものを美作市及び美作市教育委員会並びに関連設置の取り組みということで、みなさんの素案に服してご意見を賜ることになる、そのような運びになったことをご報告しながら、ご挨拶にいたします、引き続きよろしく申し上げます。

## 3 教育委員長あいさつ

(福島委員長)

教育大綱についても、年内2回開催され、今日で3回目ということでもあります。先ほどの教育委員会でも若干修正、検討させてもらったが、是非意見を出し合って協議を進めてもらいたい。

## 4 協議事項

(1) 教育に関する大綱の策定について

(事務局)

それでは、協議事項に入らせていただきます。以後の進行は規定により萩原市長にお願いしたいと存じます。市長お願いいたします。

(萩原市長)

美作市教育大綱の素案ということで、まず事務局から説明をお願いします。

(山名教育総務課長)

教育に関する大綱の作成ということで素案をつくっています。美作市総合教育会議については、第1回を本年7月24日に開催し、教育の大綱の作成について、教育の現状と課題をもとに協議を重ねてきたところです。その後、10月27日に第2回目を経て、今回が3回目。今回の議題につきましては、2回開催している結果をもとに、大綱の修正を行っております。修正内容については、各担当課長から説明をいたしますので、ご協議をお願いします。

(山名教育総務課長)

(1) 就学前教育の質の向上について説明

「1美作市の子どもたちの現状と課題」をもとに協議を進めてきた。「療育における取組は必要不可欠であり、保育士が抱える問題も多く、その対応や障がいの見立ても求められています。」という文面を入れた。施策2～施策5については、先般も出していた内容です。今回は、「施策1」療育への取り組みが追加されています。

(新田学校教育課長)

(2) 特別支援教育の推進について説明

施策2については、ユニバーサルデザイン教育推進拠点校を、勝田東小学校を指定し、今研究を進めているところであります。施策4について、保健福祉部と教育総務課等も含めながらこうした動きを進めている。

(3) 学力向上について説明

表のとおり。

学力状況は、小学校は本年度、全国を上回り、中学校は若干まだ追いついていないが今までの経年をみますと、改善傾向であるということでもあります。施策2として、心の教育の充実がベースになるだろうというご指摘の中で、人権教育、道徳教育の推進、小中連携による学習規律や生活習慣の徹底を図る。今問題のスマホ等への対応をすすめている。施策3として、地域とともにある学校という観点から、小中連携を図りながら、15年間を見通した教育を地域として進めていく。そして制度としてのコミュニティースクールを目指した、地域とともにある学校づくりの研究を行う。そして、家庭学習のスタンダードは、県が出しているもので全国の家庭にお配りしているが、これを用いた学習の充実を図りたいと考えています。

(宮前社会教育課長)

(4) 家庭の教育力向上について説明

(萩原市長)

内容について改良すべき点があるかと思しますので、それを踏まえた上でご発言をお願いします。総務部長、何かありませんか。

(尾崎総務部長)

今まで議論されていた部分については、網羅されていると思う。具体的には特にあ

りません。

(萩原市長)

竹田部長は。

(竹田企画振興部長)

やはり特別支援教育については美作市では特色あるものであり、取り上げているのは良いと思う。

(萩原市長)

ご質問でもいいですよ。

(山本保健福祉部長)

2ページ、しっかり連携をしていきたいと思いますが、個別支援シートの活用についてですが、この個別支援シートと「はぐくみ」というシートがあるが、あまり具体的なものを入れない方がいいですかね。

(萩原市長)

「はぐくみ」について説明してください。

(山本保健福祉部長)

これは保護者と保健師や臨床心理士とのやりとりで、小さい頃から1冊の台帳に記録するものである。これは保護者の了解を得て、学校等の関係者にお知らせし、共通の理解を得るものである。

(萩原市長)

これは重要な意見だと思いますがいかがですか。

(大川教育長)

教育としては、実際保護者から聞くには、いちいち自分の子どもの状況について就学する度に説明することが大変であると聞いている。何か継続してわかってもらえるものは無いかなという意見はよく聞いてきた。その都度説明をするのは辛い。個別支援シートを書いているならば、教員や保育士も同じ物を継続して、指導の課程も変えていけるのではないか。「はぐくみ」をどういうふうリンクさせていくかは、これから大事であると思う。

(萩原市長)

母子手帳ないし親子手帳は、学校教育で活用されているのか。

(新田学校教育課長・大川教育長)

されていないですね。

(萩原市長)

縦割りの典型的な事例であると思うが。「はぐくみ」については、記載事項は母子手帳より広範囲で、より深いものか。

(山本保健福祉部長)

その子の特性を中心的に書いてあるもので、保護者で希望された方のみのものなので、まだ数は少ないです。

(萩原市長)

ここはちょっと改善が必要ですね。資料編に今の支援シートと「はぐくみ」、どうなっているのかということがわかるようにしておきましょうよ。母子手帳の記載は、

みんな知っているからいいかもしれないと思ったけど、書いておいた方がいいかもしれない。

(須田教育委員)

はしかなど、大人になっても免疫ができていくかどうかというのにも使う、学校に提示することもある。やはり一生大事ではないか。

(萩原市長)

学校給食の関係でも母子手帳はやっぱり必要だね。アレルギーとかね。3つある素材は総合的にしますと書いてしまおう。大変有意義なご指摘をありがとうございます。

(山名教育総務課長)

先程、保健福祉部長が言われたことですが、うちとしては、保健師も臨床心理士もおられます。教育委員会としましては、保育現場につきましては、保健師や臨床心理士に来てもらって支援をしてもらうのが当然一番理想的である。こちらが保健師と臨床心理士を呼んで、うちの担当と協議をさせてもらっている。そういった中で、各保育園に、できれば月に1回でものぞいてもらって様子を見てもらうだけでもありがたい。連携を密にするような取り組みを今、させていただいているところである。その中で保育士が、保護者に説明するのも、バックアップがあればありがたいとの意見も多数あるので、その点はこれから28年の予算のこともあるが、それをふまえてさせていただければと思う。

(萩原市長)

はい。施策1のところの「専門職」が難しい。

(大川教育長)

「専門職（保健師、臨床心理士）」としましょう。それから、教育の観点からも、「就学前教育アドバイザー」と具体名を入れましょう。

(山名総務教育課長)

それからもうひとつ。市だけでは出来ない可能性もあるので、その点は民間の活力を導入していきたいところをひとつ視野に入れていきますので。

(萩原市長)

どのあたりに書く。

(山名教育総務課長)

施策1のところの踏まえて、専門職（保健師と臨床心理士）他民間活力を、という形に入れさせていただくか、そこらあたりを検討させてもらいたい。

(萩原市長)

確認しておかなければな。

(佐々木委員)

表記の仕方について。大綱なので、「～います。」「～です。」という表現を、施策の表現のように断定的な表現にしてもいいのではないか。

(萩原市長)

そうですね、両方が混じってますね。

(大川教育長)

あえて今は、説明のところは「～います。」とし、施策は断定表現で使い分けていますが、揃えるなら揃えます。

(佐々木委員)

数字の半角表示について統一できるならやったほうがよいのでは。

2 ページの指標について、「具体的には教育の推進を図るとともに岡山県の平均在籍率を6%に近づける」というように、もう少し何らかの説明の言葉があってもよいのではと思います。

3 ページ、とにかく全国平均を上回るようにやるんだというようにもとられやすいから、「わかる授業を推進するとともに云々」との表記もあっていいかなと、感想です。

(萩原市長)

表記については事務局に任せます。

(大川教育長)

指標ですので、数値的な目標ということで示したほうがよいのではないかということで。これは教育委員会で作るのであれば私も例えば「教育の授業力の向上を図る」という表現にしたかもしれませんが、これはあくまで作られるのが市長ということなので、これは市長のお気持ちがどちらかです。市民に見せて一番わかりやすい表現の方がよい。教員しかわからない表現はどうか。全国平均より美作市は上回っているのですよ、たとえば、おおそうかと思う。そういう表現のほうがはっきりわかるのかなと思い、そのような表現にしました。

(西浦委員)

3 ページ、指標について。保護者として、読んでいるだけでなく僕たちももっと勉強していかなければならないところでもあるが、これも指標のところであれば、子どもたちの家庭学習、保護者も何か指標というか、一緒に何かをすとか目標があればなと思う。

(大川教育長)

手元にあるデータで一番わかりやすいデータは、全国の学力学習状況調査。資料集の5 ページ。一日当たりの学習時間が1 時間を超える小学生が、美作市は53.3%、県平均国平均では60%65%63%。棒グラフです。中学生の場合は2 時間を超える、中学生ならやってほしいな、ということで24.7。県、全国が35.40 という指数を入れてみました。保護者の方の場合は、そういう調査がない。

(萩原市長)

前、議論の中であったけど、保護者とPTA とで進める懇談会、会議を行うとか。

(大川教育長)

そういうPTA 連合会とか。

(萩原市長)

多分それに近い。

(西浦委員)

持ち帰って、そのPTA 会で報告も兼ねてまたみんなで頑張っていこうという取り

組み。

(大川教育長)

ここと少し離れるかもしれませんが、現在、美作市で保育園の待機児童が多いのは0歳児であります。生まれてすぐ予約をされるのです。生後半年から預けたい人が多い。そこはオーバーフローしている部分がある。0歳児は、3人に対して1人の保育士が必要になる。場所も必要になるのでたくさん受けられない。

(萩原市長)

定員超過できないの。

(大川教育長)

多少は受けています。25%増までは受けられる。それにしても0歳児という危険性がある。そういった状況の中で保護者の理解を得たい。

(萩原市長)

他にありませんか。ありがとうございます。

(宮前社会教育課長)

## 2. 美作市の生涯学習の現状と課題について説明

(萩原市長)

いかがですか。ご意見ありませんか。

(竹田企画振興部長)

すみません、ちょっと指標が唐突なような感じがしますが。

(萩原市長)

はい。まず頭出しの文章の中にいろいろな言葉があるが、これを書くのであれば、「生涯学習とは、心と体の健康を保つための基盤施策の一つである」という位置づけを書いておかないと、ならんわな。前半文章は少し直す必要はある。指標としては、例えば、公民館来館者数というのは出始めているよな。来館者数の資料はあるのか無いのか。

(宮前社会教育課長)

あります。

(萩原市長)

来館者数を、簡単に(1)のところで言うと、結果として来館者数がいくらなんだという指標が出ていた方がいいんじゃないのか。図書館、公民館の来館者数や貸し出し件数が減少しない、とか増加するとか。その目標があって、文化芸術活動推進しているのがあって、そこまで書いていないときついな。

(宮前社会教育課長)

確かにいきなり飛びすぎている感じがしますね。確かに少し下げるところで必要なんですが。

(萩原市長)

来館者数があって、演奏会やこの辺の映画などの今年やっているやつの参加者数があるでしょう。何人だった。

(大川教育長・宮前社会教育課長)

映画が600人くらい。それからなのはなファミリーが250人。大原公民館星

空カフェ。クラシック弦楽四重奏が600人越え。ミュージックフェアが280人。  
(萩原市長)

ジャズは。  
(宮前社会教育課長)

ジャズは掘めていません。  
(萩原市長)

やっていたなかったっていうのは、やり始めました。ようやく手に付いたばかりです、表現がありでしょうよ。でも喜ばれているのは間違いない。そういう取り組みをやってみたら断られましたと。全文書き直しね。指標はだから単純に人数を書けば。来館者数ないし貸し出し数が減少しないこと。今年何人か来てもらった催し物の参加者数が増えること。それに伴って資料編に実際あったものと来場者数、美術館の図。他になにかありますか。

(西浦委員)

さっきの指標の表現が私もさっぱりわからなかった。でも何か思いがあるのではないかと思った。

要介護認定者数の割合を減らすというのは、今度は介護認定をしませんよという表現になりますので、ここは場所が違うのか、表現を入れるべきなのか、それはどうなのか。

(萩原市長)

今のは無くなった。

(大川教育長)

これは課長も言ってもわからないと思う、私がいろいろ考えて、ただ単に入館者数入れてもな、とう中で何かないかと思って考えた。

(萩原市長)

岡山市では、公民館とは健康づくりの場であるという意味をものすごく強く思っていた。

(大川教育長)

いろいろなことをやっている。男性料理教室とか、男女比を出して、女性が多いのでダンス教室とか。

(佐々木委員)

青少年健全育成でも、頭の白い人と女性の高齢者が多い。これはどこともいえるのではないか。

(萩原市長)

他によろしいですか。では、次の項目に入ります。

(貞森スポーツ振興課長)

### 3. 美作市のスポーツ振興の現状と課題について説明

(萩原市長)

スポーツ関係は、ベルとスポーツアカデミーの事は書いた方がよい。湯郷ベル、野田レーシング、スポーツアカデミー、スポーツ種目としては、剣道のことを書いて、少林寺拳法は来年するわけだからちょっと書いた方がよいのではないか。12



345くらいあってもいいんじゃないかな。

(貞森スポーツ振興課長)

後ろの方に書いたが。

(萩原市長)

子どもの体力向上のところは、子どもの体力向上で書けと。スポーツビジネス的なところはまとめといたら。つまりスポーツは文化であり、まち作りの中心だから、ベルや野田がきて、次に学校教育的な世界でのスポーツ。スポ少があり、それから小中高等学校での全国大会出場っていうのは指標が出るはずだからね。

(大川教育長)

高校生はなぎなたとか。

(萩原市長)

それも書いたら。去年一年間で。全国大会出場的な。

(大川教育長)

ボウリングとか、全国大会の出場ですね。

(西浦委員)

野球は。

(萩原市長)

鳥取の子が大原から。

(大川教育長)

甲子園へ出場した。

(萩原市長)

そうそう。これらはちょっと書き直して下さい。

それからタイトルですが、2美作市の生涯学習の現状と課題（1）生涯学習の充実と推進、駄目だよこれ。公民館の主幹活動という言葉を。

3のタイトルは「3美作市の体育施策の現状と課題」とし、（1）スポーツの振興でいいのでは。

(大川教育長)

スポーツの振興の中に、スポーツアカデミーとかそういうことを入れて、子どものところは、スポ少とか。

(萩原市長)

若干あるのは、どっちに書いたらいいかわからないんだが、「スポーツを通じた、運動を通じた生涯者教育。」そういう思いがありました。文章化して。他にないですか。

(大川教育長)

4番目は、常日頃、ここは市長の思いというにもなると思うが、要するに教育が充実すれば、子どもたちも。

(萩原市長)

わかった。そうであれば、やめて。「美作市はこういうことでやっているんだ、教育を中心としたまち作りをしていて、そのために学校教育の規定に基づき、この大綱を以下のとおりというふうに。

(大川教育長)

一番最初に美作市の教育としてはこういうことを考えている。子どもたちもこういう状況だが、出来るならばやる気を出す策をする中で増やしていきたいと書いて、まず子どもを、それから生涯学習ということで。

(萩原市長)

最後に委員名簿を載せてください。

事務方から資料編を説明して下さい。資料で足りないところがあれば入れるなどお願いします。

(山名教育総務課長)

1 ページについて説明

まだ市町村別のこともこの中に入れます。

(萩原市長)

これは、厳密にいうと、学校園グラフ表があって、人数があって、推移があつてつていうところが大切なんだ。

(大川教育長)

手元には持ってきたが、保育園園児数、何月現在というのものもあるが、人口に対して現在、実際何人が通っているとかという表がまずは必要かと思っています。それから小学校中学校の数。

(萩原市長)

就学前から言えば人数が680人ということだが、年齢別を書くとか少し丁寧に。

(山名教育総務課長)

やります。園毎の件数とか、年齢別だとかあります。

(萩原市長)

添付資料として使い便利がよいものをするように。

(佐々木委員)

他市町村の人口推移、こういうものがトップに出てくるより、例えば、大綱の6ページ、特別支援を要するから、うちはこうなんだというような感じも受けられる。そうじゃないんだ。我々が努力しなければならぬという意味で。

(大川教育長)

人口推移。

(萩原市長)

一回出してみて。

(新田学校教育課長)

2. 3 ページについて説明

(萩原市長)

これも同じ。市内一覧を。

(新田学校教育課長)

4 ページについて説明

(萩原市長)

これはしょうもないことだが、縦にしたものを、横に見るというのはダメ。

(新田学校教育課長)

わかりました。

(新田学校教育課長)

5 ページについて説明

本市の課題である、活用問題が弱いことを示している。上が小学校、中が中学校。共に A 問題に比べて B 問題が弱いデータである。下の 2 つであるが、学習時間とゲーム時間について、本市においては、スマホゲーム時間が長い。逆に学習時間が短い。小学生については改善傾向であります。

(萩原市長)

ここで一言申し上げるとすれば、対応したものを作った方が良いと思う。自尊感情のデータはあるの。

(新田学校教育課長)

あります。自尊感情は、市全体としては低くない。が、心理テストでもやっているが、学力が厳しい学校の自尊感情は低い。伸びている学校の自尊感情は高い傾向となっている。

(佐々木委員)

私は何で自尊感情が悪いのか、そういうふうにやったらよいのかといつも思うのだが、最近の資料。日本は 57% だ。なぜか、それは点数化で自分は勉強ができるできないということで、自分は、勉強はできないが、こういういいところがあるよとか、その違いが日本人には出ているのかもしれないと思う。学力検査で全国何位何位、学校で何位何位という、そういうあたりも、うまい具合に指導してやらなければならないと思う。ただ自尊感情が低い低いというのではなく、何がというところで。

(萩原市長)

期待しているものは、ユニバーサルデザイン教育をやったところで、学力も向上し、自尊感情も向上するという姿を思い描いているわけである。他にはありますか。

(宮前社会教育課長)

6 ページについて説明。

公民館の利用者数の推移を載せていきたい。

(萩原市長)

それから催し物の参加人数も載せてください。

(宮前社会教育課長)

7 ページについて説明

(萩原市長)

これは全部くくるように。

(宮前社会教育課長)

全部くくります。

8 ページについて説明

(萩原市長)

これも、くくるように。

(宮前社会教育課長)

はい。作東美術館一覧ですが、これももう少し見やすいものにまとめたいと思います。

(貞森スポーツ振興課長)

13ページについて説明

(萩原市長)

スポーツコミッションの加盟団体。全国大会の出場者数の年齢別の推移。個別シート「はぐくみ」並びに母子手帳の関係。こういうもんだということを書いて。

(貞森スポーツ振興課長)

高齢者スポーツが増えてきていることも。

(萩原市長)

なるべく他のデータも、いったんつつこんでみて下さい。最終段階で調整しましょう。なるべくたくさん準備するようにお願いします。

(大川教育長)

発達支援教育の支援員も昨年増やしていただいたおかげで、近隣の町村の中での市民一人あたりに対してのが一番少ない。

(萩原市長)

それも書くように。

(大川教育長)

はい。

(萩原市長)

全般について、質問はありませんか。

(佐々木委員)

13ページ。体育協会の剣道部は1ですかね。もう少しカウントしてもよいのではないか。

(萩原市長)

データがとれてないのではないかとということだね。

(大川教育長)

体育協会主催の大会だからではないか。

(萩原市長)

であれば、体育協会での登録者数と各種大会での種目とを切り離したものを。

(竹田企画振興部長)

本文2ページ指標で、特別支援学級の在籍率を下げるというのは、通常学級での支援のレベルを上げるという意味か。

(大川教育長)

そうです。今、教育というのはインクルージングの流れになっていまして、特別支援学級の在籍率の調査で、岡山県は47都道府県の中で県の平均が第1位で4%、その中で美作市は第1位。一番低いのは東京都0.何%。それは少ないのではなくて、通常の学級で、自閉や情緒の子ども達をほとんどみていた。

(萩原市長)

その数字も出さない。

(大川教育長)

わかりました。そういう状況なので、今やっているユニバーサルデザイン教育をすすめていけば、支援が必要な子どもたちもみんな同じように通常学級で学べるのではないかと。保護者の方が求めているのはもちろん落ち着いた環境も必要であると思うが、みんなと一緒に勉強させたいという思いの方があつる。支援学級だけではなく、交流授業とか、通常学級と一緒に学ぶ教育を望んでいる。そういう中で、割合を下げるといふのは、インクルーディングな教育が進んでいく指標になるのかなということなんです。

(萩原市長)

他にございますか。

(山本保健福祉部長)

資料編2ページと3ページの関係が、どちらかに合わせた方が見やすいのでは。さらに見開きになればなおわかりやすいと思う。

(大川教育長)

はい。

(萩原市長)

話が違つるが、協議会の方で、市当局の方としては例えば林野高校の支援を含めて、高等教育課中等教育全体について議論を回す必要があります。これは下の方に書いておいてください。

(佐々木委員)

タイトルの整合性と表現がどうかということになってくると思う。

(萩原市長)

変わってきますよ。文量が20ページです。これは30ページになるでしょう。

(大川教育長・山名教育総務課長)

表紙と目次をつけます。

(萩原市長)

大綱の策定については以上ということによろしいか。

## (2) その他

(市長)

1月22日には素案として、会議自身は後になると思うが、その地点では案をつけさせてもらふ。

(山名教育総務課長)

1月22日までには市長に見てもらわなければならない。中旬頃には完成させて、市長に了解を得ましたら、それを22日に。25日教育委員会です。

## 4 閉 会

(事務局)

それでは閉会いたします。お疲れ様でございました。